

八幡版

ICT利活用 実践事例集



1. 校内ミニ研修会

2. ICTに関わるアンケート

3. 実践事例集

- こんなアプリあります

- いろいろな使い方

- 肢体クラスの実践事例紹介





校内
三二研修会

<研修会のねらい>

全校教職員のICT機器への苦手意識を軽減し、ICT機器の活用能力を高める。

<実施方法>

3つの研修を学部毎に分かれ、少人数での研修を行った。
体験型研修をベースに、実際にICT機器を使ってみることで、操作方法を知ったり、児童生徒をイメージして、どのような授業ができるかを考えられるようにした。

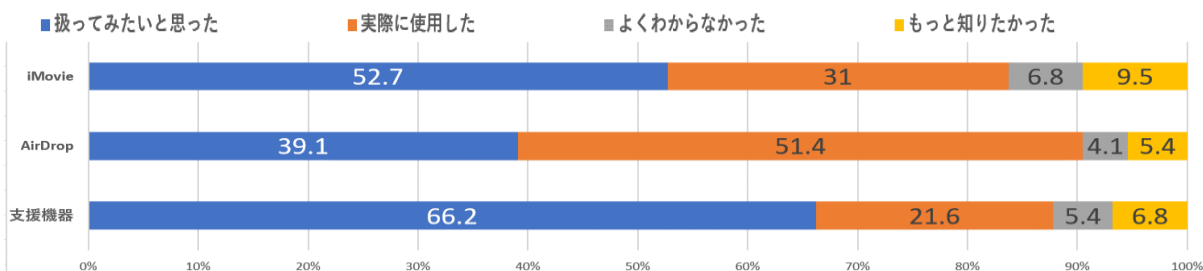
	小学部	中学部・高等部福祉科	高等部普通科
1回目	i-movie	AppleTV・AirDrop	支援機器
2回目	支援機器	i-movie	AppleTV・AirDrop
3回目	AppleTV・AirDrop	支援機器	i-movie

<各研修の内容>

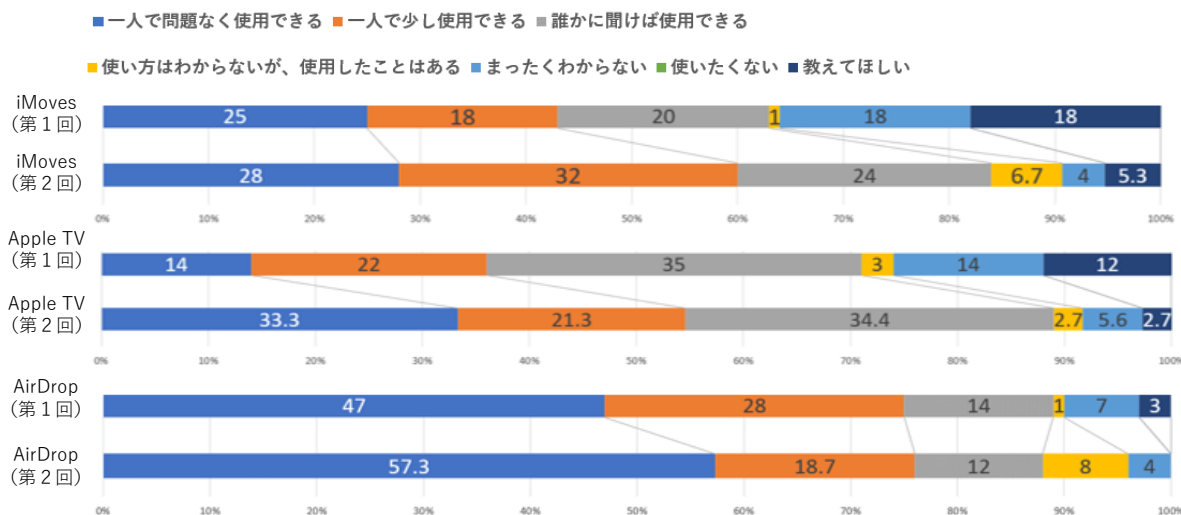
- ① i-movie：使用方法、体験
- ② AppleTV・AirDrop：使用方法、授業での活用例、AirDrop使用時の注意点、体験
- ③ 支援機器：障害種別における支援機器の紹介、スイッチ等の支援機器の種類や使用方法、授業での活用例、体験

<ミニ研修会を受けて>

①感想



②どのぐらい使えますか？



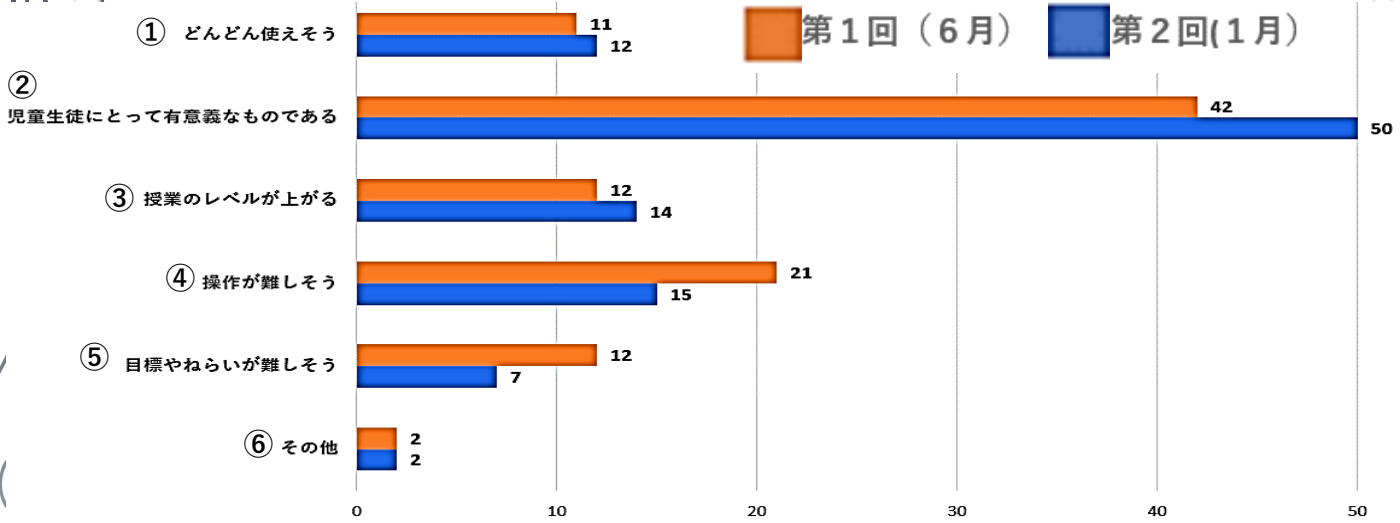
ミニ研修会前後のアンケートから、どれも「一人で問題なく使用できる」「一人で少し使用できる」が増え、実践的な研修を行ったことの結果が見られた。少人数での研修形態であったり、体験しながら授業場面を想定して話し合ったりすることで、今回研修した3つの内容について苦手意識が軽減したのではないと思われる。アンケートを基に今後も先生方のニーズにあった内容の研修を継続して取り組んでいく。

The image features a white background with decorative circuit-like lines in blue and grey at the corners. A horizontal row of nine colored dots (blue, pink, yellow, blue, pink, yellow, blue, pink, yellow) is positioned above and below the main text. The text is centered and reads "ICTに関するアンケート" in a large, bold, black font. The text is framed by a grey L-shaped graphic element.

ICTに関する アンケート

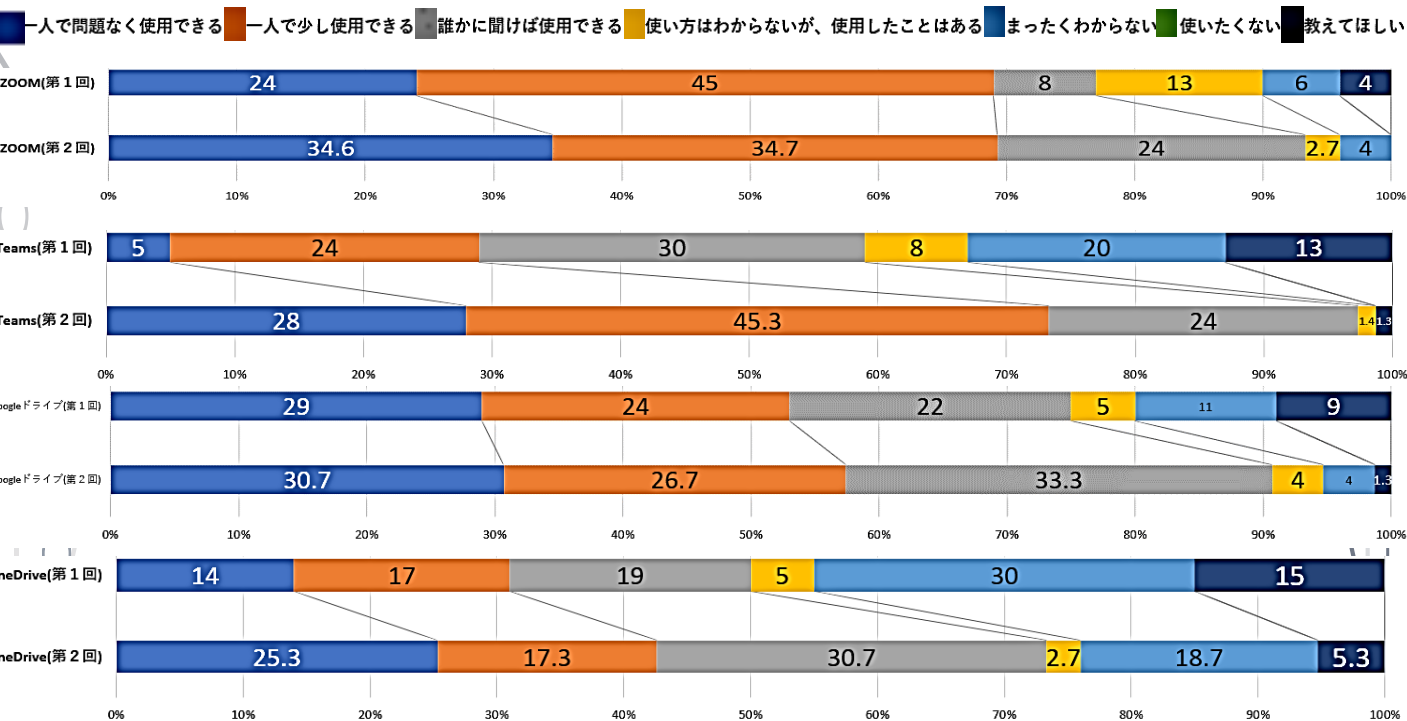
令和3年度ICT意識調査【第1回:6月(62回答) 第2回:1月(75回答)】

質問①ICTを活用することへの意識、ICTのイメージについて



- ・ ①②③のポジティブな意見の割合が増えている。
- ・ ④⑤のネガティブな意見の割合が減っている。
- ・ 苦手意識は徐々に減ってきている。
- ・ 特に「②児童生徒にとって有意義なものである」の増える割合が大きく、児童生徒にとって良いものという意識が高まってきている。

質問②どのくらい使えますか（一部抜粋）



- ・ Zoomでは、第1回に比べて第2回の方が「一人で問題なく使用できる」が増えている。9割方の先生が使用できるもしくは、使用したことがあると回答。
- ・ Teamsでは、第1回目の6月時点でTeamsへの完全移行がまだだったが、現在では日常的に使うようになったことで「ひとりで使用できる」が7割を占め、「まったくわからない」は0になった。
- ・ Googleドライブ・OneDriveでは、使用できる、使用したことがあるの割合が増え、クラウドサービスを活用する機会が増えてきている。
- ・ 全体的に「まったくわからない」「教えてほしい」が少なくなっている。

質問④次年度に向けてICT利活用に関わる要望はありますか？（こんな研修会をしてほしい、こんなものを使ってみたい等）

VRを活用した教材はないか。ドローン。

中高年教員向きの機器等の操作研修

軽度知的、重度自閉、肢体のようにいくつかのグループにわかれた実践交流

実際場面での利活用を引き続き具体的に行って欲しい。また、今回の様なミニ研修を行って欲しい。実際に自分でやってみられたり、子どもと同じで、教え合いながら覚えられるのも良かった。

訪問教育や不登校の子どもへの授業など、ICTを使ってリモートで授業している例があるなら知りたい。

ICT機器を活用した具体的な実践例や機器の操作方法、活用しやすいアプリ等を紹介してほしい（作成した実践事例集の活用）

他校のICT機器の活用方法等が知れたら嬉しいです。

全員対象でなくてよいのでミニ研修会があるとありがたいです。

今年度同様、エアドロップやアムービー等すぐに日常で使える研修をしてほしい。とてもよかったです。

ICTを活用することで、授業の質が上がった事例等について教えてほしい。

機器を増やす

児童の学習や余暇に使えるアプリでおすすめのものを教えて頂けるとありがたいです。

他校（京都府以外も）でも、ICTに力を入れていると思うので、他校の取組や実践についても情報を得たいです。

パワーポイントやビデオエディターでのムービー作成の使用方法について

- ・プログラミングについて スクラッチ以外のおすすめアプリ等を知りたい。
- ・授業で使えるアプリの共有やアプリのおもしろい使い方等の研修があればうれしい。

普段の業務で使えるICTを紹介してほしい。実際に使ってみることで、先生達がICTに慣れることが大事だと思う。

生徒のiPadを活用したアプリの授業展開

懇談等オンラインで行うこともあると思うので、teamsやzoomの相手との繋ぎ方の研修をしていただきたいです。

ロイノートとTEAMSを全員が使いこなせるように実技研修してほしい。

Excelでのアンケートの作成

使用した時のトラブルへの対応方法を具体的に教えてもらえるとより実践的に使えると思います。

授業での活用例を直接見てみたい。

基本的な操作の研修については知らない先生対象にしてほしい。逆に操作方法ではなく知的に高い生徒でも使用できる応用的な内容をもっと知りたいです。

動画編集の実技等

内容によってはすでによく使用しているものもあったので、いくつか講座を同時開催していただき、内容を選んで受講できるような研修があれば、よりその時の必要性や興味関心に合わせて受講できるかと思いました。

肢体不自由の児童生徒のスイッチ操作に生かせる機器について

実技を交えたものだとありがたいです

「全校研修会」のような改まった場でなく、興味があるものに自由にアクセスできるような環境の方が個人的には嬉しいです。（知っていること、すでにやっていることを改めて聞く必要性は感じないかなという・・・）ICTを活用した新しい実践や機器の情報はどんどん更新したいと思います。

専任で授業をする機会がほとんど無く、パソコンを使って資料等を作成する機会が増えました。そのため、WordやExcelなどの仕事の効率化を図るために、便利機能等教えていただけたら嬉しいです。

今後、生徒が生きていく社会におけるITの展望と、それに応じたICTのあり方。メタパースとかVRとかの授業への取り入れ方。

各クラスの実践報告（資料）を見て、今度に活かしたいと思います。

読み書き支援についての研修

自由に使えるiPadが身近にあれば、授業等に活用できると思います。

formsの使い方、まとめ方

～考察～

- ・授業にどう活用するのか（実践や操作方法、アプリ等）を具体的に知りたいという要望が多かった。
- ・研修会について、堅苦しくなく参加できる研修会にしてほしいや自分で選べる研修会にしてほしいという意見があった。
- ・働き方改革としてICTを活用できないかという意見もあった。



実践事例集



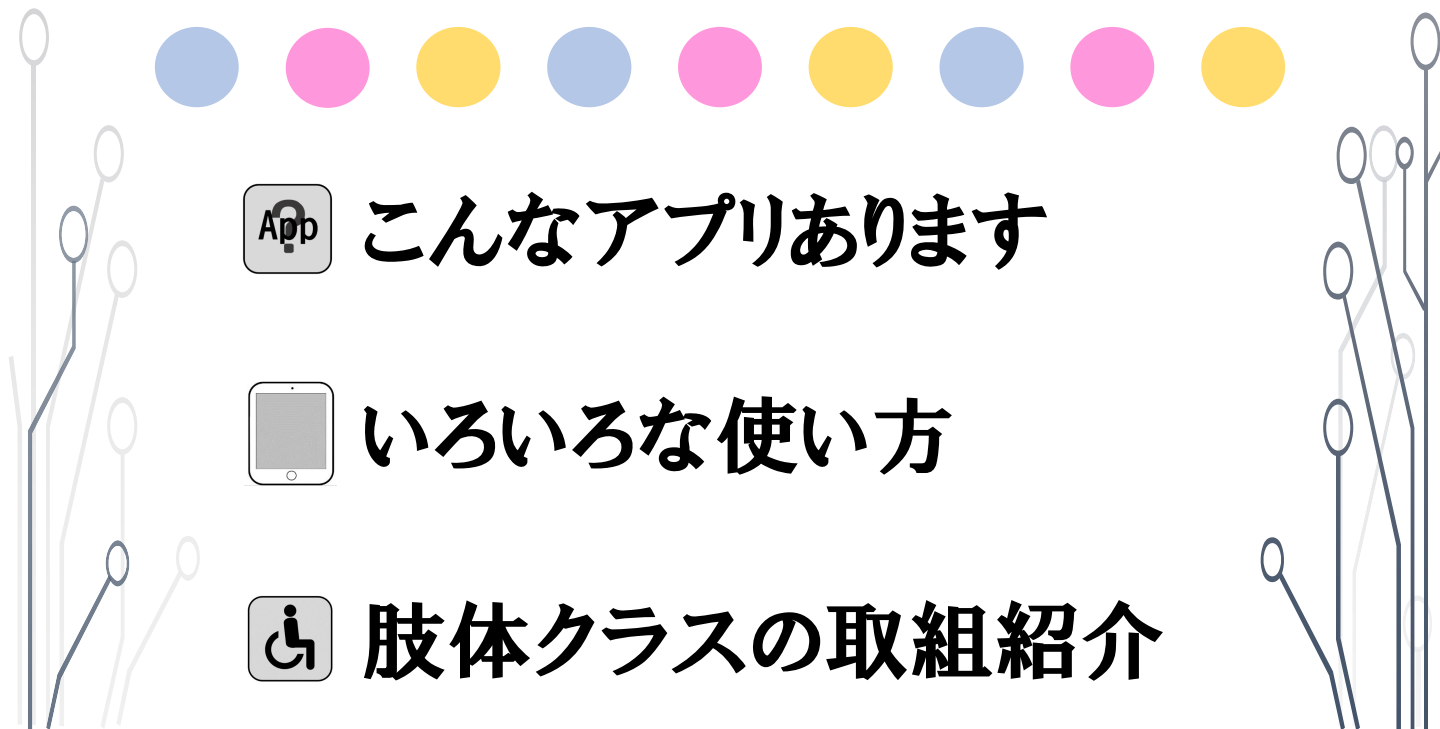
こんなアプリあります



いろいろな使い方



肢体クラスの実践事例紹介





こんな

アプリ

あります





本時のねらい

- ・教師の支援を受けて硬貨の違いや金額を理解することができる。
- ・買い物に興味を持ち、教師の支援を受けながら買い物ごっこをすることができる。

主に活用したICT機器・iPadアプリ等とそのねらい

ルーレット!(アプリ)…ある程度、買い物の個数を設定でコントロールできる。また、児童が楽しんで個数を決めることができる。

学習の流れ

展開	主な学習活動と内容
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつ ○おはなし (パワーポイント見る) ・本時の学習内容を知る。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○お金クイズ ・パワーポイントを見ながらクイズに答える。 ○買い物ごっこ ①②③ ・フリースペースに移動する。 ・教師の手本を見て買い物の仕方を知る。 ・iPadでルーレットを回して購入する商品の数を決める。 ・買い物をする。 ・ほかの友達の買い物様子を見る。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返り ○あいさつ



児童生徒の様子

- ・ルーレットをする時には、iPadの周りに集まってどの数字が出るか楽しみにしている様子だった。
- ・どの数が出ても不満を言うことなく買い物ごっこに向かうことができていた。
- ・ルーレットの「スタート」「ストップ」の方法は、他の児童のやり方を見るなどして、回数を重ねるごとに自分でできる児童が増えた。

実践の手応え・改善など

- ・ある程度教師の手で個数の操作 (ルーレットの枠数の調整) ができるので、ランダム要素を児童が楽しみつつも、無理のない数にできるところが良かった。
- ・複数のルーレットを作成、保存しておくことができるので、児童ごとにルーレットを変えられるところも良かった。



本時のねらい

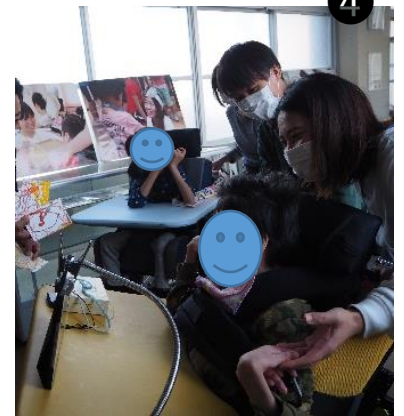
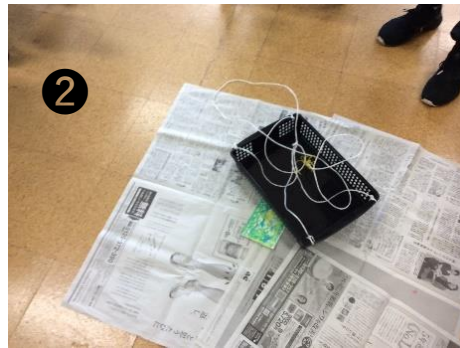
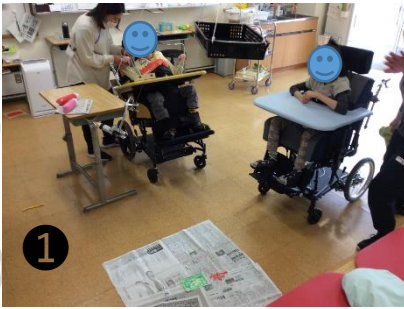
- ・活動に見通しをもち、自分のすることがわかる。
- ・二人で協力して作品を完成させることができる。
- ・お手紙を届けて感謝され、嬉しいと感じる気持ちを育てる。

主に活用したICT機器・iPadアプリ等とそのねらい

たちち&びーぷ(アプリ)…iPadタッチャーとひもスイッチを活用してVOCAとして使用。小さな動きでiPadから声を出すことができる。

学習の流れ

展開	主な学習活動と内容
導入	○本時のお手紙の届け先、製作枚数を知る。
展開	○好きな絵の具を選び、お手紙に模様を付ける。 ①② ⇒ひもスイッチ、電動カッター ○配達音楽を鳴らしながら届け先の先生がいる場所まで行く。 ③ ⇒iPad(動画)、iPadタッチャー、ひもスイッチ、Bluetoothスピーカー ○「すてきなお手紙できました。」とお手紙を渡す。 ④ ⇒iPad(たちち&びーぷ)、iPadタッチャー、ひもスイッチ、Bluetoothスピーカー ○先生の感想を聞いて教室に戻る。
まとめ	○今日頑張っていたところを伝える。 ○次回のお届け先を伝える。



児童生徒の様子

- ・ひもスイッチは継続して取り組んでいる内容なので、「引っ張れば何かが起こる」ということが分かっているようだった。
- ・スイッチを操作した結果「音」が鳴るようにしていたので、視力に課題のある生徒にも分かりやすかったようだった。
- ・普段接することのない先生と関わることで、程よい緊張感の中で活動することができた。また、「ありがとう」の言葉に喜ぶ様子も見られた。

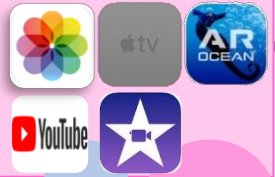
実践の手応え・改善など

- ・小さな動きでも設定や使用器機次第ではタブレットの操作は可能であり、生徒の可能性を引き出すことができると感じた。
- ・今回の授業では2名いる内の1名しか器機を使わせていなかったが、ICTを活用することで生徒の活動範囲を広げることができるのであれば導入していきたい。

高等部
1年2組
(肢体)

自立活動

「海の世界に行こう」



本時のねらい

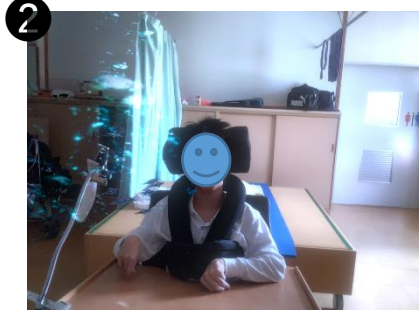
- ・海の世界に興味をもち、積極的に活動に向かうことができる。
- ・スイッチを操作し、海の魚たちと写真撮影をすることができる。

主に活用したICT機器・iPadアプリ等とそのねらい

写真(アプリ)、ARTourOCEAN(アプリ)
プロジェクター…大きな画面を見ながら(どう写っているか確認しながら)撮影をする。

学習の流れ

展開	主な学習活動と内容
導入	<ul style="list-style-type: none">・本時の学習内容を知る。・電動車いすを操作して職員室にIpadを取りに行く。
展開	<ul style="list-style-type: none">・動画で海の中の世界を見る。(ダイビング動画)…①・海の中の世界に行ってみる。…② (アプリを起動させて教室内を写し、海の中の世界を体験する。)・海の中の魚たちと一緒に写真を撮る。…③<ul style="list-style-type: none">○最初の2時間は指導者が写真を撮る。○3時間目以降は自分でスイッチを操作して、魚と写真を撮る。○先生や友達を招待し、スイッチを操作して一緒に写真を撮る。…④
まとめ	<ul style="list-style-type: none">・自分が撮った写真を見る。



児童生徒の様子

- ・初めての授業では、アプリを起動した後は不思議そうな表情で、自分の横に移っている魚たちを見ていた。画面と魚がいる場所あたりを交互に見るなどの様子が見られたが、すぐに慣れ、魚たちが泳いでくる様子を楽しんで見ていた。
- ・初回以降、この授業をすることがわかると、わくわくした様子でよく声が出るようになった。

実践の手応え・改善など

- ・映画のように大画面でホワイトボードに投影したり、Ipadのアプリを使うことで、生徒の「やってみたい」「自分でしたい」という意欲を引き出すことができた。
- ・普段から使い慣れている(棒)スイッチを使うことで、1回目からでも積極的に手を伸ばして撮影をすることができた。はじめは魚が通り過ぎてからスイッチを押してしまうこともあり、何も写らないこともあったが、繰り返し撮影する中で、画面を見てすぐに手を動かそうとしたり、連写したりしながら魚と一緒に写ることができるようになってきた。